



vol.13 交通事故を 起こしやすい車の色がある？



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも！

車を購入するときには、車種やグレードと同様にボディの色も重要な要因の一つになると思います。多くの人は、単純に自分の好みで車の色を決めてしまっているのではないのでしょうか。しかし、あなたの好みの色が交通事故を起こしやすい色だとしたらどうでしょう？実際に交通事故を起こしやすいボディカラーというのがあるとされ、科学的にも根拠があるようなのです。

いったいどんな色の車が事故を起こしやすいのでしょうか？

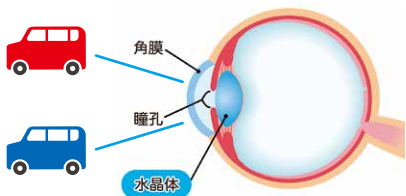
1 青い車が一番事故を起こしやすい？

かなり古いデータになりますが、1968年に出版された「Using Colour to Sell」という書籍によると、2048件の交通事故から割り出した車の色別の事故率は右記のようになっています。

結果をみて、なんとなく違和感をおぼえた人もいるのではないのでしょうか？イメージ的には、黒などの夜間に目立たない色の事故率が高そうですが、このデータと黒は6位で事故率はわずか4%です。逆に、白などの夜間の視認性の高い色が事故を起こしにくいイメージがありますが、実際には4位で12%と黒よりも事故率が高くなっています。唯一納得出来るようなのが8位の「黄・金」で、かなり目立つ色ですので、他の車に存在をアピールすることで事故は減りそうです。小学生がかぶる帽子の色が黄色であることを考えても、事故防止に効果のある色なのではないかと想像できます。かなり昔のデータなので、あてにならない気がしますが、こういったランキングになるには、それなりの科学的な根拠があるようです。

自動車の事故率 カラー別ランキング

1位	25%	青
2位	20%	緑
3位	17%	グレー
4位	12%	白・クリーム
5位	8%	赤・あずき色
6位	4%	黒
7位	3%	ベージュ・茶
8位	2%	黄・金
9位	9%	その他



2 人間の目のレンズの仕組みが原因？

科学的な根拠というのは、人間の目のレンズの仕組みにあるようです。

人間の目は、遠くの物を見る時には水晶体と呼ばれるレンズを薄くしてピントを合わせます。逆に、近くの物を見る時には、水晶体を厚くして近くにピントが合うようにするわけです。ところが、水晶体の厚みが

変わるの、単純に見ようとする物体の距離だけでは決まらないようです。実は、見る色によっても水晶体の厚みが変わるらしいのです。波長の長い色を見る時には水晶体が厚くなり、逆に波長の短い色を見る時には水晶体は薄くなります。波長の長い色というのは、いわゆる暖色と呼ばれているもので、赤っぽい色になります。波長の短い色というのは、いわゆる寒色で青や紫といった色が該当します。つまり、波長の長い赤っぽい色を見ているときは水晶体が厚くなり、近くを見ているときと同じような状態になり、逆に波長の短い青や紫などの色を見ているときには水晶体が薄くなり遠くを見ているときと同じ状態になるわけです。そして、色収差という現象によって、青いクルマは実際の位置よりも遠くに見えてしまうようなのです。遠くにあると思っていた車が実際には近くにあるということになればたしかに危険で、ブレーキングが遅れ気味になって事故率が高くなるというの也是十分に納得できます。また、波長の長さがちょうど真ん中に位置するのが黄色で、色収差により距離感の誤認がおこらないとされています。その結果として、黄色の車は事故率が低くなるということです。また、黄色の場合は目のセンサーともいべき網膜ににじんだように映るという特徴があるために、実際の大きさよりも大きく感じる効果もあるようです。黄色が目立つ色であると感じるのは、そういった理由からなのでしょう。

3 上記のランキングは参考程度に！

青いクルマの事故率が高く、黄色い車の事故率が低いというデータには、人間の目の構造による裏付けがあり十分に説得力がありますが、世の中には青よりも黒の方が事故率が高かったり異なるデータも存在します。しかし、黄や赤など「目立つ色」に関しては、他のデータでも事故率が低いことから視認性の高さから事故は起きにくく想定できますが、あくまでも確率ですので、どのカラーの車でも常日頃から安全運転を心がけましょう。

